



あゆみ

青梅市立河辺小学校 学校便り

6月号 No. 692 令和7年6月2日

青梅市立河辺小学校 校長 関谷 望

一人一人が輝くために ～個に応じた支援の充実～

校長 関谷 望

今年の4・5月は例年にも増して急に暑い日が続いたり、一転して肌寒くなったりと、気候の変化が激しかったように思います。体調の維持が難しく、この時期としては珍しいのですが市内には学級閉鎖をした学校もありました。

河辺小では3年生が御岳・日の出山遠足、4年生が青梅の森・風の子太陽の子広場遠足と、おかげさまで青梅の自然に触れる体験を無事に実施することができました。また、5月第2週には「なわとび旬間（春）」として、全校児童でなわとび検定に挑戦する取組も実施し、しっかり「暑熱順化」することで夏の暑さに負けない体の準備ができました。

1学期も後半に入り、5年生の御岳移動教室、6年生の日光移動教室といった宿泊学習も控えています。また、6月中旬からは水泳指導も始まります。

河辺小では「向上心とその基盤となる自己肯定感を育む」を学校経営方針とし、子供たちの「楽しい」「頑張ろう！」「自分ならできる」という気持ちをたくさん引き出して活動を進めていきたいと考えていますが、その土台となるのは、やはり「健康」や「元気」です。

これからも子供たちが「ベストコンディション」で登校でき、様々な教育活動に対して「やってみよう」「挑戦してみよう」という前向きな気持ちをもっていけるよう、ご家庭での、「心身のパワー補充」をどうぞよろしくお願いいたします。



さて、4・5月の児童朝会で「ことばときこえの教室」「くわのき」の先生方に、教室紹介をしてもらいました。

河辺小「ことばときこえの教室」は昭和48年に「ことばの教室」、次の年に「きこえの教室」が開級し、西多摩地区の多くの学校からの通級児童を受け入れ、「西多摩地区の特別支援教育の柱」の一つとして活動しています。現在は、河辺小を含む青梅市内各小学校、羽村市、瑞穂町、奥多摩町など周辺市町村の児童70名程度が在籍しています。「難聴等、聞こえにくさ」「発音の誤り」「吃音」、さらに「読み書きの苦手さ」「話し言葉の苦手さ」などが指導対象です。

「くわのき」は平成29年度にそれまでの通級指導学級を母体として友田小に開級しました。担当の先生が曜日によって河辺小・第二小を巡回することで、児童は校内で指導を受けることができるようになりました。

どちらの教室紹介でも、担当の先生から、通っている子が「自分の苦手なことから逃げずに、頑張っている『頑張り屋さん』であること」を伝えてもらいました。そして、「(通級している、いないに関わらず) 一人一人に得意なこと、苦手なことがあって当たり前のこと」「頑張っている友達同士、(互いに) 温かく応援してほしいこと」を「お願い」として話しました。

河辺小学校では、学校経営方針具現化のための取組の1つとして「個に応じた支援の充実」を挙げています。小学生は、幼児期から学童期、さらに思春期と心身の成長段階をいくつも経験する時期です。それ故に個人差も大きく、また情報化社会や少子化、社会環境の変化により、現在の子供達には「知識と実体験のアンバランス」や「自立心、トラブル解決能力が低下している」とも言われます。

一人一人の成長は一律のものではありませんし、その速度や程度、特性もそれぞれです。河辺小はこれからも、一人一人が輝くために力を尽くしていきます。

保護者・地域の皆様には今後とも、「河辺小学校の教育活動への参画者」として、お子様はもちろん、子供たち一人一人への温かい応援をどうぞよろしくお願いいたします。